

|                              |             |             |
|------------------------------|-------------|-------------|
| NO. 11                       | 発行日 2005年8月 | 改定日 2016年3月 |
| <b>ISO方式ホイール・ナットの取扱いについて</b> |             |             |

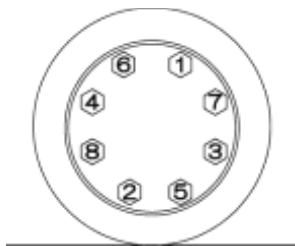
一般的に、トレーラにはISO方式のホイール・ナット（平面座）が採用されています。

JIS規格方式とISO規格方式とのホイール・ナットの相違点及びISO方式の注意点をまとめました。

取扱いを誤るとタイヤ・ホイールの脱輪等重大事故の要因ともなりますので、このような事故を未然に防ぐための参考として下さい。

## 1. JIS方式（球面座）とISO方式（平面座）の違い

- 1) 取付ボルトの本数、締め付け順序が異なります。

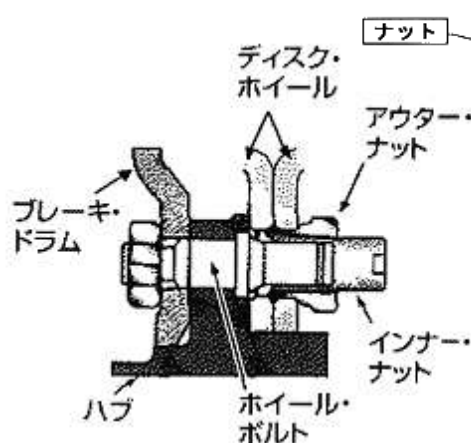


JIS方式 8本ボルト



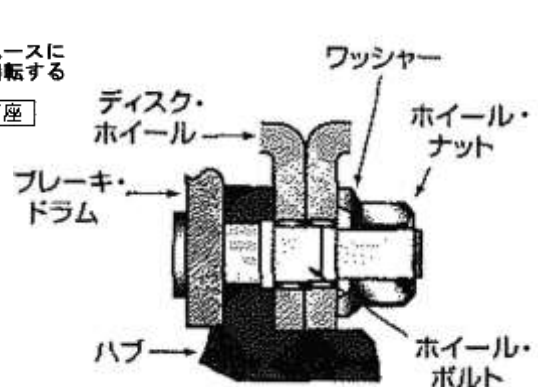
ISO方式 10本ボルト

- 2) ディスク・ホイールの締め付け方式が異なります。



ホイール・ナットとホイールとの当たり面が球面で、ダブルタイヤのホイールは個々に締め付けられる。

JIS方式



ホイール・ナットとホイールとの当たり面が平面座であり、ダブルタイヤのホイールは共締めされる。

ISO方式

### ⚠ 注意

ホイール・ナットの締め付け方向は、左右とも右ねじを採用しているメーカーと、右側は右ねじ、左側は左ねじを採用しているメーカーがありますので、各メーカーの取扱説明書などをご確認下さい。

|                                |             |             |
|--------------------------------|-------------|-------------|
| NO. 11                         | 発行日 2005年8月 | 改定日 2016年3月 |
| <b>I S O方式ホイール・ナットの取扱いについて</b> |             |             |

## 2. 使用上の注意事項

### 1) 運行前点検の励行



- ① 目視での点検
- ② 点検ハンマーを使用しての点検
- ③ タイヤ空気圧の点検

ホイール・ナットが締まっているか点検ハンマーにて運転前に図のように必ず点検して下さい。

緩みがあった場合は、締付規定トルクで増締めして下さい。  
**締付けトルク：各メーカーの取扱説明書などでご確認下さい。**

### 2) ホイール取付け作業時の注意事項

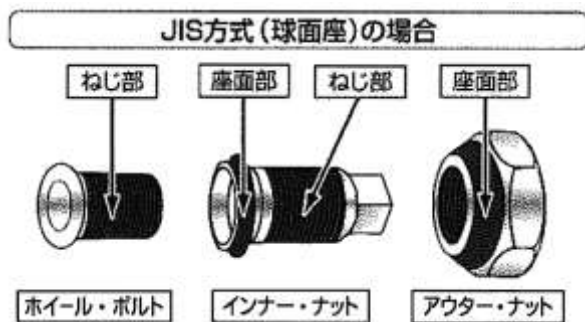
#### ① ディスク・ホイール、ハブ、ホイール・ボルトの清掃

ディスク・ホイール取付面、ホイール・ナットの当たり面、ハブ取付面、ホイール・ボルト、ナットの錆やゴミ、泥などを取り除いてください。

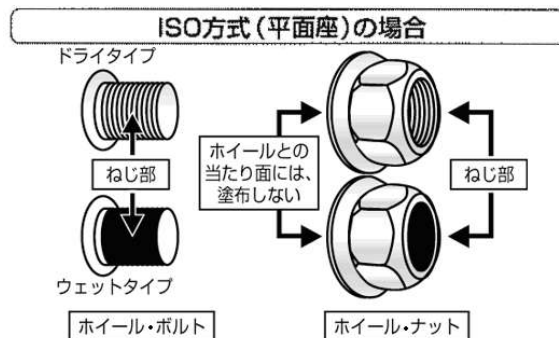
### ⚠ 注意

ディスク・ホイール取付面、ホイール・ナットの当たり面、ハブ取付面への追加塗装は行わないで下さい。厚い塗膜は、ホイール・ナットの緩みやホイール・ボルトの折損の原因になります。

- ② ホイール・ボルト、ナットのねじ部はウェット（潤滑）とドライ（潤滑無し）の2種類あり、ウェットを下図に示します。



ホイール・ボルト、ナットのねじ部、座面部（球面座）にエンジンオイルなどの潤滑剤を薄く塗布して下さい。



ウェットタイプはホイール・ボルトとナットのねじ部、ナットの座金（ワッシャー）とナットとのすき間にエンジンオイルなどの潤滑剤を薄く塗布して下さい。

### ⚠ 注意

ホイールと座金（ワッシャー）との当たり面には、エンジンオイルなどの潤滑剤の塗布は行わないで下さい。

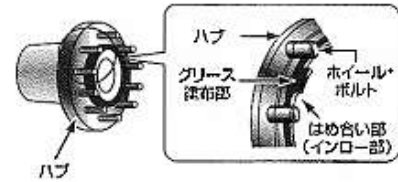
潤滑剤は、お車の取扱説明書に記載されている油脂を使用して下さい。二硫化モリブデン入りのオイルやグリースなどは、絶対に使用しないで下さい。過大な締付けとなり、ホイール・ボルト折損の原因となります。

ドライタイプ又はウェットタイプの確認は、取扱説明書又はメーカーにお問合せください。

|                                |             |             |
|--------------------------------|-------------|-------------|
| NO. 11                         | 発行日 2005年8月 | 改定日 2016年3月 |
| <b>I S O方式ホイール・ナットの取扱いについて</b> |             |             |

③ I S O方式ディスク・ホイールの取付時の留意点

I S O方式（平面座）の場合には、ディスク・ホイールをハブに取付ける際に、ディスク・ホイールのハブへの固着を防止するために、ハブのはめ合い部（インロー部）に、グリースを薄く塗布します。



**⚠ 注意**

特に冬季間の走行後には、ディスク・ホイールがハブに固着して、ホイールが取外しにくくなる場合があります。  
ホイール・ナットは規定のトルクで締付けて下さい。トルク値は各メーカーの取扱説明書を参照下さい。

**⚠ 警告**

ホイール・ナットの締めすぎは、ホイール・ボルトの伸び、破損の原因になりますので締付けには十分注意して下さい。  
新車時及びタイヤ交換を行った場合は 50～100 km 走行後、規定トルクで増締めを行って下さい。また日常点検又は 3 月定期点検時に（シビアコンディションの場合 1 月毎）規定トルクのチェックを行って下さい。  
増締めを怠るとホイール・ナットが緩み、タイヤが脱輪する恐れがあります。

### 3. アルミホイール、スチールホイールの履き替え時の注意事項

アルミホイール履き替えの注意

スチールホイール、アルミホイールは、それぞれ専用のホイール・ボルトが必要です。  
アルミホイール用ボルトに交換してください。

| ホイール     | スチールからアルミに履き替え           | アルミからスチールに履き替え            | アルミ用に一時的にスチールを使用                     |
|----------|--------------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| ホイール・ボルト | ボルトをアルミ用に交換<br>(ナットは共用品) | ボルトをスチール用に交換<br>(ナットは共用品) | そのままアルミ用ボルトにスチールホイールを装着<br>(ナットは共用品) |

**⚠ 注意**

ホイール・ボルトの交換など、分解を伴う作業は、整備工場で行ってください。  
スチールホイール用ホイール・ボルトのままアルミホイールを装着すると、ねじのはめ合い長さ不足によって、ホイール・ボルト、ナットのねじ山が破損します。  
また、締付け力が十分得られず、車輪脱落事故の原因となります。スチールホイールとアルミホイールの混用は行わないで下さい。  
アルミ用に一時的にスチールを使用する場合は、ホイール・ボルトのねじ山露出部にはグリースを塗るなどして、ねじ部の防錆を行ってください。